

第4章 5年間の施策の展開

第3章に掲げた「6つの基本目標」を達成するため、平成23年度からの5年間に進める施策の方向性を掲げました。

福井県教育委員会では、市町教育委員会をはじめ家庭や地域、企業、民間団体等と連携し、これらの施策を着実に進めていきます。

特に、以下の9項目について、重点的に取り組みます。

□ 「福井型18年教育」の推進

子どもたちの成長に携わる保育所・幼稚園・学校や家庭、地域等が、生まれたときから高校卒業までの発達段階に応じて、きめ細かに連携するという視点に立った教育を進めます。

特に、生涯にわたる学習の基礎をつくる幼児期と、社会と深くつながる高等学校での教育を充実するとともに、接続を重視した一貫性のある教育を進めます。

※「福井型18年教育」とは…

福井県は、県独自の学力テストをおよそ60年間、体力テストも45年以上も継続して実施し、これらの分析結果を学校の授業等の改善につなげています。また、小学校低学年の授業のサポートや学校の環境整備等、地域や家庭が積極的に学校を支えています。

このような本県の教育風土を活かしながら、生まれたときから高校卒業までの18年間の、それぞれの発達段階において、子どもたちが望ましい力を身につけるとともに、関係者のきめ細かな連携の下、接続を重視した一貫性のある「福井型18年教育」を進めます。

□ 幼児教育の推進

幼児教育センター（仮称）を核に、家庭教育（親）への支援や、保育士・幼稚園教員の資質向上、幼児期の指導から学校教育への円滑な接続を進めます。

□ 県立高等学校の再編整備と魅力ある学校づくり

少子化や産業・就業構造の変化等に対応した魅力ある県立高校をつくるため、平成20年10月の高等学校教育問題協議会答申に沿って、県立高校の再編整備を進めます。

高校生が希望する進路の実現を支援するため、高校生の学力向上を推進するとともに、中高一貫教育のあり方やチャレンジ科（仮称）の設置を検討します。

□ 実践的な英語力の向上

グローバル化する現代社会において活躍できる人材を育てるため、中学校・高等学校の6年間を通じた実践的な英語コミュニケーション能力の向上を進めます。

□ 教員の指導力の向上

児童生徒の興味・関心を引き出す教材の開発や、優れた指導方法の共有化、生徒による授業評価などにより、授業の改善を図ります。

また、教員の資質のさらなる向上をめざした教員研修のあり方を検討し、福井大学と教育研究所との連携の強化等を進めます。

□ 体験活動の推進

子どもたちの「挑戦力」や社会性を育むため、小学校での長期宿泊体験や中学校での自然体験、高校でのボランティア体験など体験活動を進める環境を整備します。

□ 心の教育の推進

本県が独自に作成する道徳教材を活用し、生命を尊重する心やふるさとに貢献しようとする態度、夢と希望に向かって挑戦する心を育てます。

□ 平成30年福井国体開催に向けた準備

平成30年に本県で開催される第73回国民体育大会に向けて、会場となる施設の計画的な整備や選手・役員の養成・強化など必要な準備を進めます。

□ 「文字の国ふくい」の実現

白川文字学をはじめ書道やかるた、短文形の文芸（詩文、短歌、俳句）などがさかんな本県の文化的な特徴を全国に誇れる県民文化として醸成します。